

実施報告書【課題実践校用】

学校番号	46
学校名	富山県立高岡支援学校

学校の現状と課題	自閉症や注意欠陥多動性障害等の発達障害(以下、「自閉症等」という。)を合わせ有する等、児童生徒の障害の重度化と多様化が進んでおり、対応する指導・支援方法の構築が求められる。	
テーマ(特色)	自閉症等を合わせ有する児童生徒の新しい学びの環境づくり	
設定した「テーマ」の達成状況	知的障害に自閉症等を合わせ有する児童が落ち着いて学ぶことができる環境を自立活動始め、各教科の授業で構築し、その効果が各学部で表れた。今後は、効果的な支援方法を保護者や放課後等デイサービス事業所等の関係機関と共有できるようさらに実践を深めるとともに、将来の自立と社会参加に向けた合理的配慮の要請等につなげることが期待される。	
実施内容 (具体的に記入する)	<ul style="list-style-type: none"> ○小学部(ホワイトボード、段ボール) ・小グループでの個別学習等で、同じ教室を間仕切りしたり、活動内容を掲示したりして使用した。 ○中学部(ホワイトボード、ボディボール) ・周囲の生徒の動きが気になって自分の課題に集中しにくい生徒や苦手な生徒の姿が見えると机上学習に取り組みない生徒を対象に教室をホワイトボードで仕切って学習に取り組んだ。(主に教科学習中心) ・心理的に不安定になったとき、トイレに逃げたり教師に不満をぶつけたりする生徒に対し、表情を見て心理的に不安定になっている場合、ボディボールを使用して身体を動かす時間を作ってあげようとした。 ○高等部(ホワイトボード) ・自閉症等を合わせ有する生徒の教科学習で二つのホワイトボードを使用した。一つホワイトボードには一日の予定や教科の学習の流れを視覚化するためのボードとして使用し、もう一つには各授業での板書に使用した。 	
取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から)	<ul style="list-style-type: none"> ○小学部(ホワイトボード、段ボール) ・ホワイトボードや段ボールで教室を仕切ることで、児童にとって必要のない刺激が軽減され、学習に落ち着いて取り組める環境を設定することができた。 ・ホワイトボードに活動の予定表(参加者、場所、活動内容等)を掲示することにより、見通しをもって落ち着いて活動に参加することができた。 ・情緒が不安定になった児童について、狭い空間、本人だけのプライベート空間をつくることで、クールダウンができ、気持ちを落ち着かせることができた。 ○中学部(ホワイトボード、ボディボール) ・教室に仕切りを作ったことで、苦手な生徒が教室にいても、別の空間にいるためスムーズに教室の中に入れるようになった。 ・ホワイトボードに示された課題内容を見ることで、主体的に課題に取り組めるようになった。 ・心理的に不安定な時にボディボールを使用することで、使用後は表情が穏やかになり、教師へ不満をぶつけたりすることが少なくなった。以前トイレに逃げていた生徒も今は教室で気持ちを切り替えることができるようになった。 ○高等部(ホワイトボード) ・その日の日程や教科の流れを視覚的に示すことで見通しをもつことができ、学習に落ち着いて取り組む姿が多く見られるようになった。またホワイトボードには必要に応じて書き加えていけるため、日程の変更や追加の事項等を分かりやすく伝えることができた。 ・キャスター付きで移動できるため、場面に応じて適した場所で使え、生徒の注目を促しやすく、各授業等で有効に利用することができた。 	
対象者(学年・人数など)		
実施実績	4月	テーマの設定、計画
	5月	パーテーションホワイトボード、段ボール等の購入、職員への事業趣旨説明、実践学級の募集・選定
	6月	自立活動の時間の指導を主とした授業実践
	7月	↓
	8月	↓
	9月	↓
	10月	各教科等の授業への活用
	11月	↓
	12月	↓
	1月	実践の成果の学部内検討
	2月	↓
	3月	合理的配慮の検討